

新しい仕事は新しい義務を教え  
時は古いものを  
すばらしい未知のものに変える  
真理におくれまいとするものはつねに  
上をむいて前へ進まねばならぬ  
見よ われらの前には  
真理のかがり火が輝いている  
われらはわれら自身  
巡礼者でなくてはならぬ  
われらのメイフラワー号を乗りだし  
すさまじい冬の海をとおりに大胆に舵をとれ  
未来の門を過去の血にさびた鍵で  
開けよらとするな

J・R・ローウェル『現在の危機』

James Russel Lowell

(一八一九—一九一)

アメリカの詩人・批評家

## 著者の序論

「反動の堅い殻の下に静かに勢いを増していた新しい力・新しい欲求・新しい目標はとつぜんにはっと張り裂けて出てくる」

J・R・グリーン『イギリス国民史』第一〇章

「変化は多くの場合、議論と討論を重ねたのちに完成される。そして世人は少数の人しか注意しなかつたいくつかの原因によって、たいていのことが静かにもたらされるといふことを見ないのである。初めの二〇年では、制度は論争の余地がない。つぎの二〇年では、勇気のある人が制度を論難する。そのつぎの二〇年では、勇気のある人が制度を守る。あるときは、じっさいにかれらが発言を完全に許されるとしても、最も決定的の議論がその制度に反対して進められてもむだである。他の場合には、制度を非難する最も大人気ない奇弁がおるのである。

John Richard Green

(一八三五年—一八八三)  
A Short History of the English People (一八七四)

中村祐喜訳『イギリス国民史』鹿島出版会刊

第一に純粹の理論によつては、おそらく弁護の余地がないとしても、その制度はそのユニニテイの思考の意識的の習慣と形式とに一致している。第二にこれらは鋭い分析もおそらく説明し難い影響から変つたのである。そして徐々に弱まった構造は崩し折れるには一吹きで足りた。」

(ザ・タイムズ 一八九一年一月二七日)

党派感情が強く、また社会的・宗教的の議論が鋭く争われる今日においては、その党派がなだであれ、あるいはその社会学上の色合いはともかくとして、万人が完全にまったく賛成する国民の生活と福祉に重大な意味をもつ、ただ一つの問題を発見することが必ずかしといは誰にも考えられることである。

禁酒運動を論ずれば、あなたはジョン・モーレイ氏からは、それが奴隷解放運動<sup>\*</sup>以来の最大の道徳運動だと聞かされるだろう。しかしブルース卿は「酒の商売は年々国庫に四四万ポンドの歳入を貢献し、それがじつさいに陸海軍を維持し、そのほかに数千の人たちの雇用を提供していること、絶対禁酒主義者といえども酒類販売人に多くのお蔭を被っている——なぜならば、もし酒がなかったならば水晶宮<sup>\*</sup>の食堂もずつと前に閉鎖されていただろう——」とあなたに思いおこさせるだろう。

阿片貿易を論ぜよ。一方ではあなたは阿片が中国人民の志気<sup>い</sup>を急速に破壊していると聞くが、他方ではこれはまったくの幻想であつて、中国人は阿片のお蔭でヨーロッパ人にはま

つたく不可能な仕事をする事ができるということを聞くのである。

イギリス人は食物については、このいやなにおいがちよつとおつても軽蔑するのであるが。

宗教上と政治上の問題はあまりにもしばしばわれわれを敵意ある陣営に分けてしまう。そして静かな・公平な思想と純粹の感情が、行動の正しい信念と堅固な原則への前進に欠くことができないその王国において、戦闘の騒々しさと戦う軍勢の足掻きが、たしかにすべてのものに生命を吹きこむ心からの真理愛と愛国心よりも、より一層強制的に傍観者に提示されるのである。

しかし、それに関しては、見解の相違をほとんど発見できない問題もある。すでに過密になっている諸都市に、人口の流入が引き続き、農村地域がさらにからになってしまうことが、深刻に憂慮すべきことだということは、すべての党派の人が、イギリスばかりでなくヨーロッパやアメリカとわれわれの植民地においても、まったく一樣に同意していることである。

ローズベリー卿は数年前ロンドン県議会の議長としての演説で、この点をとくに強調している。

「ロンドンというものを考えるとき、わたしの心に連想されるものは誇りの気持ではない。わたしはいつもロンドンの恐ろしさに悩まされている。

John Morley

(一八三八一—一九三三)

イギリスの政治家・著述家

\* 一八六三年リンカーンは離叛支配下にある黒人奴隷の解放を宣言する。

\* 九一頁に訳注あり

Archibald Philip Primrose Rosebery

(一八四七—一九二九)

イギリスの政治家

一八八八年ロンドン県議会の初代の議長となる。

William Cobbet  
 (一七六三—一八三五)  
 著者・ジャーナリスト・革新主  
 義者

Sir John Elden Gorst  
 (一八三三—一九一六)  
 イギリスの政治家

それはでたらめに見えるが、この気高い川の川沿いの地に、数百万のものが投げ出されているというぞつとする事実、すなわちおたがい自分自身の轍と轂のなかで、おたがいに ついて注意することも知ることもなく、おたがいを心にとめることなく、他人がどのように生活しているか考えもせず、無数の人の不慮の災難について顧慮しないという事実に悩まされている。

六〇年前、偉大なイギリス人コベットはそれを瘤と呼んだ。もしそのとき瘤であったならば、いまは何だろうか。それは村落地域の生命と血液と骨を、半ばその胃のなかに飲みこんだ腫瘍、象皮病である。」(一八九一年三月)

サー・ジョン・ゴーストはその病弊を指摘し、その治療についてつぎのように示唆する。「もしかれらが病弊を永久に治療したいならば、その原因を除去しなければならない。かれらは潮流を逆行させ、都市への人口の移入を止め、人口を土に帰さなければならない。都市自身の利益と安全はこの問題のこの解決のなかにある。」(デイリークロニクル 一八九一年一月六日)

フアラースト司祭長はいう。

「われわれは大きな都市の国になりつつある。村は停滞するかさもなければ縮小しつつある。

都市は法外に増大しつつある。そして大きな都市がますますわが民族の体格の墓地になる

傾向があるというのが真実としても、ひどく不潔な・汚ない・水はけの悪い・怠慢と泥で害された多くの家を見ると、この真実を不思議とすることができようか。」

ロードス博士は人口学会議で、イギリスの農業地域からの人口の移住について注意を喚起してつぎのようについていう。

「ランカシャーその他の製造工業地域では、六〇歳以上のものは人口の三五パーセントであったが、農業地域ではそれは六〇パーセント以上であった。」

家の多くは、あまりにひどいもので、それを住宅と呼ぶことはできなかった。人びとの体格は低下し、体格のよい人ができる仕事の量をこなすことができなくなった。

多数の農業労働者の地位を改善するため何かしなければ、脱出は続いて、かれらがあえて言わなかったところの結果を生ずるだろう。」(ザ・タイムズ 一八九一年八月一五日)

新聞は「自由」・「革新」・「保守」のいずれも同じ驚きをもって、当代のゆゆしい徴候を見ている。

セントシエームズガゼット紙は、一八九二年六月六日つぎのようについている。

「現代存在する最も大きな危険に対して適当な矯正手段を正しく提供する方法は、重要事であり、けっして生やさしい問題ではない。」

一八九一年一〇月九日のスター紙はいう。

「農村からの流れをどうしてせきとめるかは、今日の主要な問題の一つである。労働者は

多分土に復帰させられるかもしれない。しかし農村工業はどすれば村落のイングランドに戻されるだろうか。」

デイリーニュース紙は数年前、一連の題目につき本を出版したが、『村の生活』は同じ問題を取り扱っている。

Benjamin Tillet  
（一八六〇—一九四三）  
イギリス労働党の政治家

労働組合の指導者たちも同じ警告を発している。ベン・チレット氏はいう。

「手は仕事に飢えており、土地は労働に飢えている。」

Thomas Mann（一八五六一—一九二九）  
（四一）  
雄弁な戦時的サンディカリスト

トム・マン氏はつぎのようにのべる。

「大都市における労働力の過剰は、土地を耕作しなければならなかった人たちが、農村地域から流入したことが原因である。」

人は誰でもこの問題のさし迫った性質には同意する。誰でもこれを解決しようと心を傾けている。そして提案される治療法の価値について——誰でもが同じように賛成すると考えることはまったく夢想的であるが——このように広くこのうえなく重大だと考えられる主題について、われわれが最初から意見が一致しているということは、すくなくともきわめて重要なことである。

これに対する答、すなわち今日の最もさし迫った問題の一つに対する答が、これまでわれわれの時代の偉大な思想家と改革者の創意に重荷をかけている、多くの他の問題を比較的容易に解決することが、この仕事において示されるとき——終局的には示されるとわたし

は信するのであるが——これはなお一層注目すべき希望のもてる前兆だろう。

たしかに、いかにして人びとを土地——天空をもち、そよ風が吹き、太陽が暖ため、雨露が湿りを与えるわれわれの美しい土地、それは人類に対する神の愛の具体的現われそのものである——に戻すかという問題への鍵は、ほんとうに人間の問題の解決法である、それは、大酒の・極端に骨の折れる労働の・落ちつかない焦慮の・心身を弱らせる貧乏の問題——政府の干渉の眞の限界、つねに人間と神の力の関係でさえあるが——のうえに、それがわずかばかり開いているときでも、それを通して光の流れを注ぐことが見られる堂々とした門へ到る鍵である。

人びとをいかにして土地に戻すかというこの問題を解決するためにとるべき第一歩は、これまで大都市における集合を招来した、非常に多くの原因を、注意深く熟考することだということに推測に容易である。事情がそうであるならば、非常に長期の調査が、その第一着手として必要である。しかし幸いなことに、著者にとっても読者にとってもこれは同じだが、このような分析はここでは必要でない。理由を簡単にのべれば、都市に人びとを引き入れる原因は、それが過去に働いたものであれ、いま働いているものにせよ、それはすべて『魅力』として要約されるものである。そしてしたがって、古い『魅力』のもつ力が、創造されるべき新しい『魅力』のもつ力に打ち負かされるように、われわれの都市がいまもっている以上の大きな『魅力』を、人びとに、あるいはその大部分に与えない治療

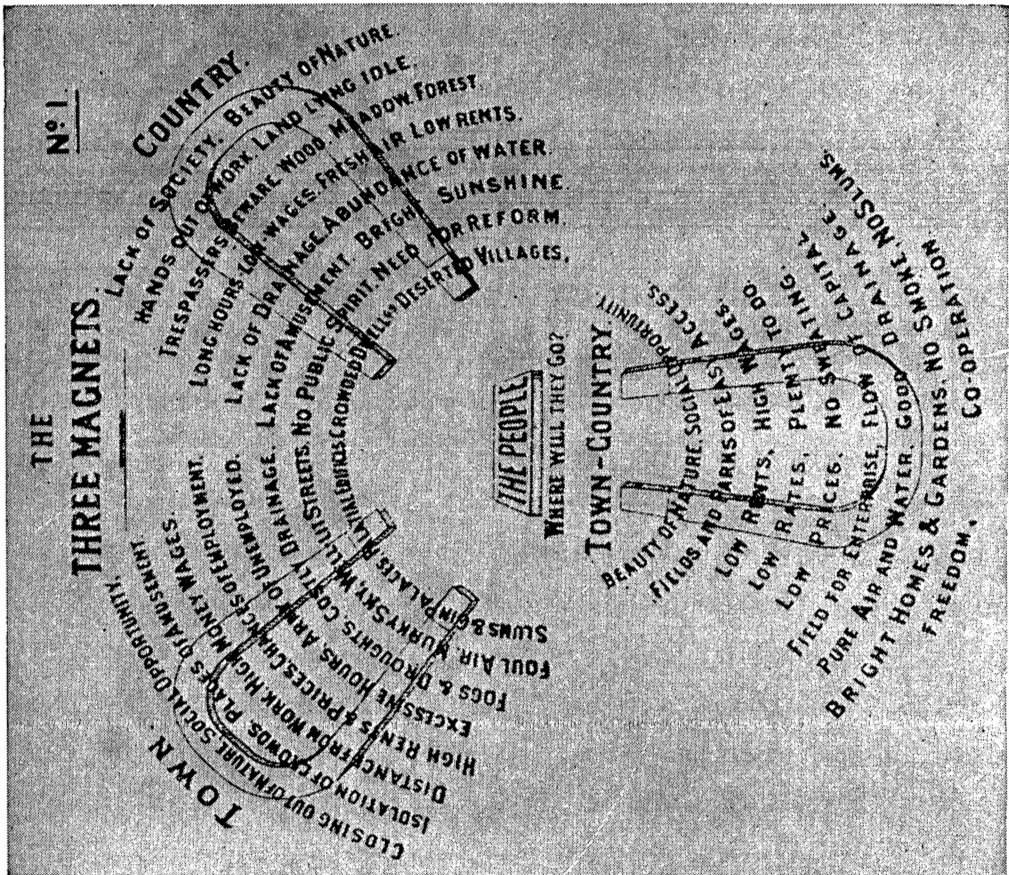
は効果的ではありえないことは明らかである。

都市は磁石に、人は針にみなされる。そこで、われわれの都市がもっている以上の大きな力の磁石をつくる方法を発見することが、自発的でしかも健康的な仕方、人口を再配分するために効果があることが了解されるのである。

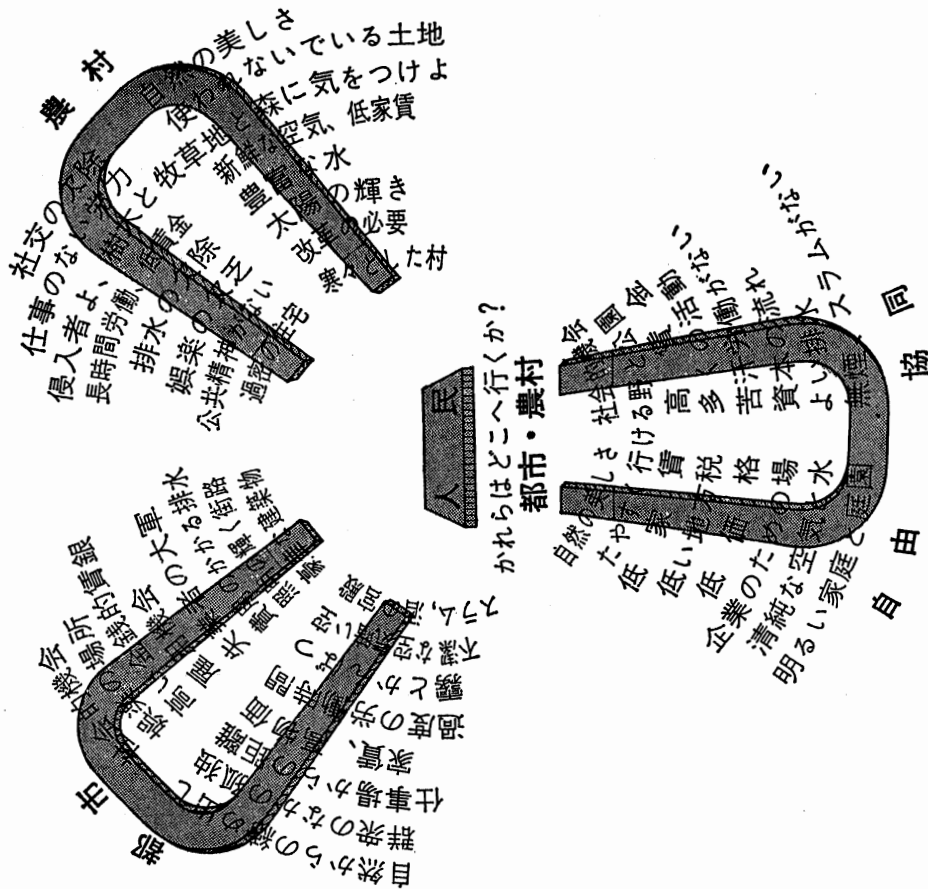
問題は不可能ではないにしても、当初は解決が困難に見えるかもしれない。

ある人はつぎのように質問したいかもしれない。

農村を都市よりも、実際的人に、より一層の魅力のあるものにする——都市にいるよりも農村のほうが賃金が高い、あるいはすくなくとも肉体的の安楽という点では程度が高い、すなわち都市と等しい社交の可能性が農村でも確保され、われわれの大きな都市で享受できるものにまさってとはいわないが、普通の男女に等しく進歩の機会が与えられる——ために何がほんとうにできるだろうかと。これに非常によく似た形で表わされた結果は、よくみるところである。この問題は、新聞でそしてあらゆる形の議論において引き続き取り扱われている。人は、すくなくとも労働者は、一方において人間社会に対するかれらの愛を窒息させるか——すくなくともただなら伸びている村のなかで見いだすことができるよりもはるかに広い関係で——あるいは他方、農村の強烈で純粋なすべての歓喜をまったく無しですませるか、なんらかの選択あるいは二者択一をもたなかったし、いまももつことがないのである。



### 三つの磁石



働く人たちが、農村に住みしかも農業以外の仕事に従事することが、現在まったく不可能であるばかりでなく、永久にそうでなければならぬように考えられていることが問題である。それにとどまらず、過密で不健康な都市が経済科学の最後のことばであるかのようになり、あるいはまた鋭い線によって工業と農業を分割する現在の産業形式が、必然的に永続するかのように考えられていることが問題である。これこそまさに心に浮かぶもの以外の代案を、考えだす可能性を無視するという一般的の誤りである。しばしばそう思い込まれているように、都市生活と農村生活の二者択一があるのではなく、じっさいは第三の選択——すなわちきわめて精力的で活動的な都市生活のあらゆる利点と、農村のすべての美しさと楽しさが完全に融合した——が存在するのである。

この生活を営むことができるという確信は、混雑した都市から、生命・幸福・富・力の源泉である母なる大地の胸のなかへ人びとの自発的の移動——それはわれわれすべてが努力して求めている結果であるが——をもたらし磁石に由来する。したがって都市と農村は、住民を自分のほうへ引きつけようとする二つの磁石のようなものであり、その対抗関係が両者の性質を分ち持つ新しい生活形式を生じさせるのである。これは『三つの磁石』のダイアグラムにおいて図解されているが、〈都市〉と〈農村〉の主要な利点が、両者に共通する不利な点を伴い表示されている一方、〈都市・農村〉の利点はどちらの不利からも解放されていることが示されている。

△農村△磁石にくらべて、△都市△磁石は高賃金や雇用機会や生活の向上への期待などの利点を提供するように見えるが、こういった利点は高い地代や物価によって大部分は相殺されてしまうのである。都市は社会的機会と娯楽の地としてたいへん魅力的であるが、過度の労働時間や長い通勤距離やいわゆる『群衆のなかの孤独』などは、都市生活の良きものの価値を大きく減殺するのである。その灯に輝く街路は、冬の夜などはとりわけ魅力的であるが、太陽光線はますますさえぎられるのである。大気がひどく汚染されるので、美しい公共建物も雀のようにたちまち煤けてしまい、彫像なども救い難いほどに汚れてしまうのである。宮殿のような大建築と恐ろしいスラムこそは、現代都市の奇妙な相互に補完し合っている特徴である。

△農村△磁石はあらゆる美と富の源泉だとみずから宣言する。しかし△都市△磁石はそれに対して、農村には社交界がないので退屈だし、資本もないので天与のものを使っていないのではないかと嘲るのである。農村には美しい景観があり、広い猟園、すみれの香の漂う森、新鮮な空気、さらさら流れる小川の響きがある。だがつぎのような脅迫的な文字があまりにもしばしば眼にはいるのである。『無用のもの入るべからず』。

エーカー当りで評価すれば、地代はたしかに安い、これはほんとうの娯楽の理由であるよりは、むしろ低賃金が生んだ当然の結果である。

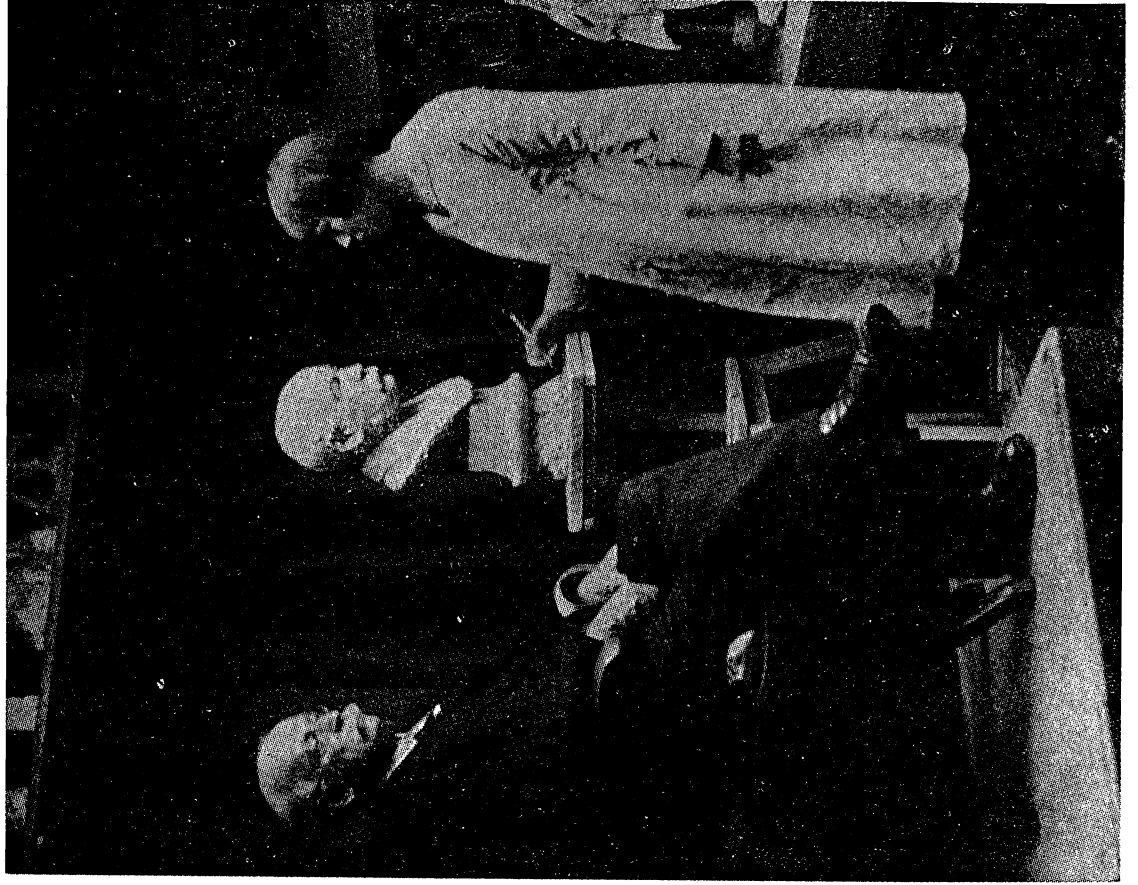
労働時間が長いことと娯楽が乏しいことは、輝く太陽の光や新鮮な空気が人びとの心を喜



エベネザー・ハウート 一八八五年



サイ・エベネザール・ヘワード  
 一九二七年ミス・アイビー・ヤング  
 による銅像とともに(この銅像は同  
 年のロイヤルアカデミーに展示され  
 た)



ばせることを妨げてしまう。

農業は雨が降りすぎるとしばしば損害を被むる。だがこの天の不思議な恵みを適宜受け入れることはまれにしかできないので、日照りの場合には飲み水にもこと欠くことがある。<sup>(註)</sup>農村の本来の健康でさえ、適当な下水施設やその他の衛生条件が欠けているために大きく失われている。一方、人びとによってまったくといってよほど見捨てられた場所に居残る少数の人びとは、都市のスラムに対抗するかのよう、しばしば群らがって生活するのである。

しかしながら、都市の磁石も農村の磁石もいずれも自然の全計画と目的を表現するものではない。人間社会と自然の美しさが共に享受されるように工夫されなければならない。二つの磁石は一つにならなければならない。男と女が異なる資性と能力によってたがいに補っているように、都市と農村も相互に補完しなければならない。都市は社会の象徴であり——相互扶助と親密な協力の父たること母たること兄弟たることの象徴であり、人と人とのあいだの広範な関係の象徴であり、——広い拡大する共感の象徴であり——科学・芸術・文化・宗教の象徴である。そして農村は、神の人間に対する愛と思いやりの象徴である。われわれの生存と所有のそのすべては農村に由来する。

われわれの肉体はそれから作られ、それに還るのである。われわれはそれによって養われ、それによって着物をき、それによって暖められ、住まうのである。

われわれはその胸の上に休らうのである。その美しさは美術や音楽や詩の豊感である。その力は産業の車輪を推進する。それは、あらゆる健康のあらゆる富のあらゆる知識の源泉である。しかし歓喜と知恵は完全にはその姿を人の前には現わさない。それはおそらく社会と自然との、この邪悪な異常な分離が続くかぎり、現われることはないだろう。都市と農村は結婚しなければならぬ。そしてこの楽しい結合から、新しい希望と新しい生活と新しい文明が生まれてくるであろう。八都市・農村V磁石の建設によって、いかにしてこの方向に第一歩を踏み出すことができるかを示すことが、この本の目的である。これは論理的あるいは経済的立場のいずれにおいても、いまや実行可能であり、それは原則的に非常に健全なものであることを読者が納得されることを願うのである。

『都市・農村』では、社会的交流の機会が混雑した都市と同じく、いな一層多く享受されるばかりでなく、自然の美しさがそこに住む人たちを包擁することを明らかにし、いかにして高賃金が引き下げられた地代と地方税と両立するか、いかにすれば豊富な雇用機会と進歩への明るい見通しがすべての人に保障されるか、いかにすれば資本が誘致され富が創造されるか、いかにすれば最も望ましい衛生状態が確保されるか、いかにすれば美しい住宅と庭園が各人の手に渡されるか、いかにすれば自由の限界が拡張されるか、いかにすれば協調と協力の最善の実りが幸福な人びとによって収穫されるかを示したいのである。そのような磁石の建設は、もしそれが実現され、つきつぎに建設されるならば、サー・ジ

ョン・ゴーストがわれわれの前に提出した緊急の問題、すなわち「人口の都市への流入を食い止め、その流れを土地に押し戻すこと」の解決策が確実に与えられるであろう。このような磁石とその建設方式に関する詳細の記述が、以下の章の主題となっている。

注1 この引用は最初の版そのままである。しかし小教点の打ち方に誤りがある。

一九二九年には六五歳以上のものは、イングランドとウェールズの都市地域では人口の八・七七パーセントであり、グレートロンドンでは八・三三パーセント、村落地域では一〇・三三パーセントであった。(J. オズボーン)

注2 ダービーシャー県議会保健部長ヘーワイス博士は、一八九四年四月五日下院特別委員会の席上、チェスターフィールド提案のガス・水道法案をめぐる質問一八七三号に対する答弁のなかで、つぎのように証言した。

「わたしはブリミントン公立小学校で石鹼の泡でいっぱいになった数個の金盥を見た。

それが子供たち全部の手洗い用の水であった。同じ水でつきからつきへと子供たちは手を洗わねばならなかった。田舎にこれに類したものに罹っている子供はそれを子供たち全部に伝染させるだろう。

女教師はわたしにつきのように話したのである。運動場で汗をかいてきた子供が汚い水をじっさいに飲むのを見なければならなかった。咽喉がかわいているとき、ほかに水がなかったのだ。」

## 1 &lt;都市・農村&gt;磁石

\* Milton  
A poem in 2 Books

「イングランドの緑の楽しき大地の上に\*  
聖なる都を築きあげるまで  
心の内の闘争を止めまい  
剣を手のなかに休めることもすまい」

William Blake  
(一七五七—一八二七)  
イギリスの詩人・画家

—ブレイク

「われわれが持っている家屋のなかで行なり完全な衛生上で治療上の行為。より一層強く美しく限られた範囲の集団として構築された建物。流れの方向に比例するように保たれ、周囲を塀で囲まれた建物。このように配慮されれば、どこにもみすばらしい郊外などは現われないうし、内には清潔で賑やかな街路が走り、外にはひろびろとした大地が横たわる。塀の周囲には美しい花園と果樹園が帯のように広がっているので、町のどの場所か

らでも、新鮮な空気と草原と遠い地平線の眺めに接するには数分とかならないだろう。これこそ究極の目標である。

—ジョン・ラスキン『胡麻と百合』

John Ruskin  
(一八一九—一八九〇)  
イギリスの著述家・批評家・社会改良家  
胡麻と百合(二七二)

\* 二、四三〇ヘクタール

読者よ、ここに六、〇〇〇エーカー\*の土地があると想像していただきたい。その土地は現在のところ純粋の農地であり、エーカー当り四〇ポンド<sup>(年1)</sup>総額二四万ポンドで公開市場で買収して得られたものとしよう。その買収費用は平均利率が四パーセントを越えない抵当社債で支弁されたものとしよう。その土地は責任ある地位の誠実で名誉ある四人の紳士の名前に法律上は帰属する。かれらはまず社債の持主に対する担保として土地を預かっているものであり、つぎにその土地の上に建設されようとしている八田園都市つまり八都市・農村>磁石に住む人びとのために、土地を預かるのである。

計画の主要点の一つは、土地の毎年の価値に基づくべきすべての地代は、受託者に対して支払わねばならないということである。その場合の受託者は利息と減償基金を用意したのち、差引残高を新自治体の八中央評議会<に手渡す。手渡された金は道路・学校・公園その他の公共施設のすべてを建設し維持するために使用される。

土地買収の目的は、さまざまな方法でのべられようが、ここではおもな目的のいくつかについていえば十分である。すなわち産業人口のために比較的、高い購買力の賃金を支払う

ことのできる仕事を見つけること。より健康的な環境とより規則的な雇用を確保すること。企業心に富む製造業者・協同組合・建築家・技術者・建設業者・あらゆる種類の機械技師・その他さまざまな職業に従事する多くの労働者に対して、かれらの資本と能力に対する、新しくより良い雇用を確保する手段を提供することである。他方、その土地に移住して来る人びとと、現在そこに住んでいる農民に対しては、農家の戸口近くに農民の生産物売る新しい市場を開設するよりに計画される。要するにその目的は、あらゆる水準の真の労働者すべての健康と愉楽の基準を、向上させることである。

これらの目的を達成する手段は、都市生活と農村生活の、健康的で自然な経済的な結合であり、それは自治体によって所有される土地のうゑに結ばれるものである。

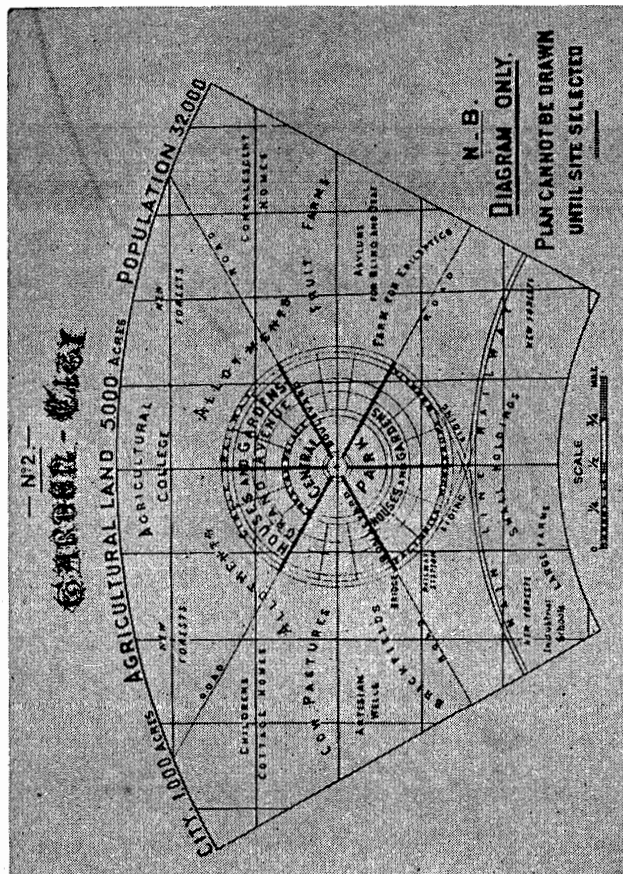
六、〇〇〇エーカーの土地のほぼ中央に建設される八田園都市は一、〇〇〇エーカーのつまり六、〇〇〇エーカーの六分の一の面積を占める。形は半径一、二四〇ヤード（四分の三マイル）の円である。

（ダイアグラムは自治体地域全体の基本設計であり、中心の町を示している。町の一部もしくは町の区を示すダイアグラムは町自身の図形を追求するうゑに有益である——ただし作図は単なる示唆にすぎずおそらく実際とは大いに異なるものであらう）

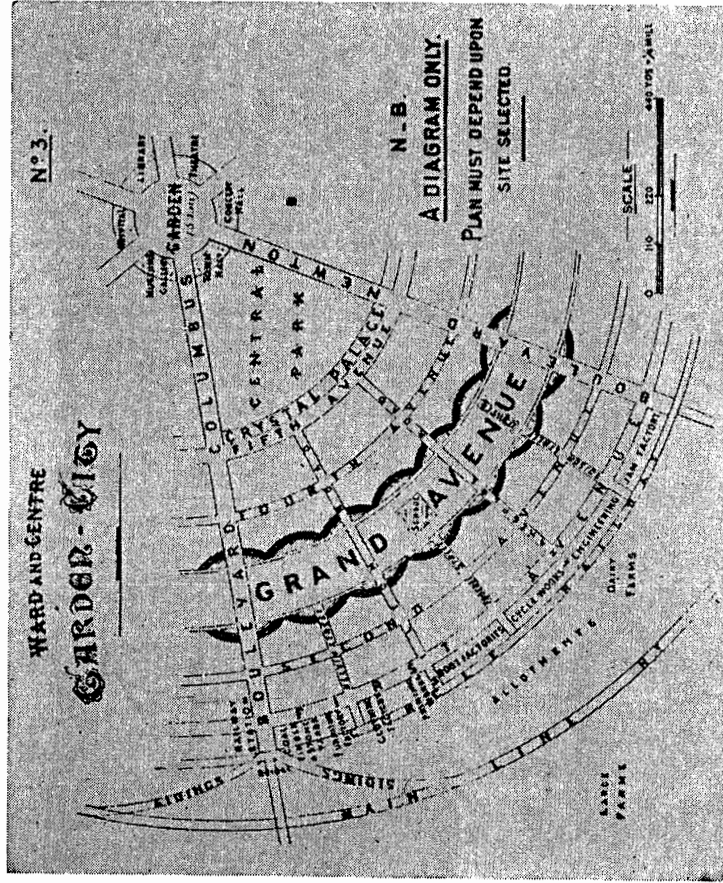
幅員一二〇フィートの六本のすばらしい広い並木道が市の中心から周辺へ伸びている。この並木道で仕切られた区画はみな等しい面積をもっている。市の中心には面積五・五エー

人口三二、〇〇〇人、町の地所一、〇〇〇エーカー、農地地所五、〇〇〇エーカーの田園都市

環状鉄道に囲まれた町の外部は扇形の農地となっている。図によると扇形の中央部に農業学寮があり、それから左に廻ると、新しい森、子供のたまり場、職人の家、煉瓦工場、工業学校がある。右に廻ると、新しい森、予後保養地、果樹園、買辦者のための施設、てんかん病者のための農場がある。農地には風分地、小保有地、大農場が見られる。（訳者注記）



田園都市の区と中心  
 中心に五・五エーカーの広場状の花  
 園があり、これから放射状に六本の  
 並木道がのびていて、町を六つの区  
 に分けている。図に示されている区  
 はコロナス通とニュートン通とい  
 う二本の放射並木道によって隣りの  
 区と分けられている。中心の花園に  
 面して公衆浴があり、公衆浴の外側  
 にやはり六分の一の中央公園があ  
 る。この中央公園に面して、その外  
 側に水晶宮があり、水晶宮は五番通  
 にも面している。環状道路は中心に  
 近いものから、五・四・三・二・一  
 番通となっていて、四番通と三番通  
 のあいだには「壮大な並木道」とい  
 われる環状の帯があり、このなかに  
 小学校と教会が配置されている。  
 一番通の外側には、石炭・石材・材  
 木の集積場、家具工場、衣料工場、  
 印刷工場、製靴工場、自転車工場、  
 シヤム工場が見え、この工場、倉庫  
 には環状鉄道からの引込線が入って  
 いる。環状鉄道の外側は配分地と搾  
 乳農場である。  
 鉄道駅は環状鉄道がコロナス通に  
 交わるところにある。(訳者注記)



カーの円形の広場があり、美しい水をやる庭園として設計されている。

この庭園を囲んで、大きな公共建築物——公会堂・演奏と講演用の大ホール・劇場・図書館・博物館・美術館・病院などが建ち並ぶのである。水晶宮<sup>\*</sup>で囲まれた大きな広場の残りの部分は一四五エーカーの公園で、あらゆる人が気楽にはいれる十分の大きさのレクリエーション広場を含んでいる。

中央公園の周り全体を(広い並木道で分断された部分を除いて)取り囲むのが水晶宮<sup>\*</sup>と呼ばれる、公園に向って開いている広いガラスのアーケードである。この建物は雨天には町のものに人気のある憩いの場のひとつになる。

ガラス張りのアーケードが手近かにあるので、みんなは怪しい空模様の日でも中央公園に出かける。アーケードのなかには製造された商品が陳列されていて、よく考え選択する必要のある買物はここで行なわれる。しかしながら水晶宮<sup>\*</sup>で囲まれた広場はこの目的に必要以上にはるかに広いのである。そのかなりの部分は冬期庭園<sup>\*</sup>として使用される。

冬期庭園<sup>\*</sup>全体はたいへん魅力的な性格であり、一番遠く離れている住民でも六〇〇ヤード以内にあるので、この円形には町のすべての住民が容易に行けるのである。

水晶宮<sup>\*</sup>から町の外環に向って行くと、われわれは途中で五番通り<sup>Five Ways</sup>を横切る。この通りには他のすべての道路と同様に街路樹が植えられている。

水晶宮<sup>\*</sup>を振りかえると、十分な敷地の上に立っている非常にすばらしく美しく建てら

\* 一八五二年ロンドンの大博覧会  
 にハイドパークに建設、一八五二  
 年廢棄、一八五四年セントナムに再  
 興、一九三六年焼失した。ジョセフ  
 フラーストンの設計の鋼鉄とガラ  
 スの建物。長さは約五五〇メー  
 トル。園内・海外からの七千の出  
 品物が展示した。

St Joseph Paxton  
 (一八〇一—一八五)

れた家々が輪のように並んでいるのが眼に映る。さて、さらに歩いて行くと、住宅は大部分同心円状に建ち並んでいて、いろいろの並木道に面しているか、あるいは町の中心に集中する放射状の広い並木道や道路に面して建ち並んでいることに気がつく。われわれの旅行に同伴する友人に、この小都市の人口を尋ねれば、市それ自身のなかに約三〇、〇〇〇人、農地地所に約二、〇〇〇人住んでいて、町なかには間口二〇フィート奥行一三〇フィートという標準サイズの五、五〇〇の敷地があり、その目的に割り当てられる最小限のスペースは間口二〇フィート奥行一〇〇フィートだと知らされるであろう。住宅や住宅集団に現われた種々さまざまな建築ならびに設計、そのうちの何軒かは共同の庭と共同の台所をもっていることを知る。われわれは道路の方向が一定にきめられていて、その流れに背くような道路も全体の流れに調和するように設計されていることが、住宅建築等の主要点であることを知るのである。これは自治体当局が規制しているのである。というのは、たとえ適当な衛生規則が厳格に施行されるにしても、個人の好みや選択は自由だからである。

町の外縁部に向ってなお歩いて行くと「壮大な並木道」につきあたる。この並木道はその名にふさわしく、四二〇フィート<sup>(幅)</sup>という広い幅員で、長さ三マイルの緑の帯を形成し、中央公園の外側に横たわる町の部分を二つの帯に分割しているのである。

この並木道は一五エーカーの追加の公園をつくりだしている。公園からもっとも隔たっ

たところに住んでいても公園までの距離は二四〇ヤード以内である。このすばらしい並木道のなかには、それぞれ四エーカーの広さのある六つの敷地の上に公立学校とその運動場や庭園が設けられる。そのほか人びとの宗教心が決定する宗派に属する教会を、信者とその仲間の基金で建設するためにとってある。

△壮大な並木道△に面した住宅は、同心円設計からはずれており——ダイアグラム(白)に示された区の一つでは少なくともはずれている——△壮大な並木道△に面した線をなるべく長くするため、三日月形の家なみに配列されている。その結果、われわれの眼にはひろびろとした△壮大な並木道△がますます広く映るのである。

町の外環には、工場・倉庫・酪農場・市場・石炭集積場・木材置場などが環状鉄道に面して配置されている。環状鉄道は町全体を取りかこんでいて、この鉄道本線に接続する引込線が農地地所を横切っている。

この鉄道によって貨物は工場や倉庫から直接貨車に積みこまれ、遠方の市場へ輸送され、他方、他の市場から輸送されてきた貨物は、直接貨車から倉庫や工場に運びこまれるのである。

したがって、包装や運賃の点で非常に大きな節約ができ、貨物の破損を最小限にくいとめることができるだけでなく、町の道路の交通量を減らし、道路の維持費を著しく減少させることができるのである。△田園都市△ではスモッグの被害はまず無いといってよい。と

\* 九〇頁の図に同心円と黒い本線に囲れた部分が見られる。

## \* small holding

小保有地は一九九三年の小保有地法で規定されているが、面積五〇エーカー(約二〇ヘクタール)以下の土地であり、農業経験のあるものが自らの費用で農民にならうと予るとき、県議会は小保有地を提供する責任がある。この目的の土地は、同意または強制買収によって取得される。

## \* allotment

配分地(アロットメント)にはアロットメントとアロットメントガーデンがあり、前者は五エーカー以下、後者は四分の一エーカー以下である。都市地域のものは、たいていアロットメントガーデンである。広域のアロットメントは、農業労働者や職人等が自分のために野菜や果物を経済的に生産するため、無償または安い賃料で貸与される土地で、特別市・市・町と教区の議会はアロットメント法に基づいて、アロットメントを提供する責任がある。この目的の土地は、同意または強制買収によって、また賃借によって取得される。

というのは、すべての機械は電気エネルギーで作動するからであり、その結果、照明その他の用途に使用される電気のコストは大いに引き下げられるのである。

町の塵芥は地所内の農業部分の肥料として利用される。農地はさまざまな個人農業者によって、大農場・小保有地\*・配分地\*・牧草地などとして保有されるのである。こういつたさまざまな農業のやりかたが自然に競争しあう結果、農地の保有者が自治体当局に最高の地代を払おうとして、テストされたものが最良の耕作組織であるが、それはおそらく、さまざまな目的のために適用される最良の組織である。資本主義的農民のもとで統一行動をとり、あるいは協同作業の団体によって、広大な農地で小麦を栽培すれば、最大の利益が得られるだろうことは容易に想像できるのである。他方、細心の注意と美的感覚とそれに創意工夫が必要な、野菜や果物や草花の栽培は、肥料や栽培法や自然環境と人工環境等の効能と価値を同じように考える、個人もしくは個人の小集団の手で行なわれるのが最も良い。

この計画によって、——あるいはもし読者がそう名付けることを望むならば、この計画の欠陥によって——不景気や停滞を回避することができるのである。またこの計画は個人の創造力を鼓舞するが、完全な協同作業を認めるものである。他方、このような形の競争から生みだされる増大した地代は、共同財産あるいは自治体の財産となり、そのうちの大部分は恒久的改良のために使用される。

一方、町そのものには、いろいろの職業に従事する人口がおり、各区には商店や倉庫があり、農地地所に住む人びとに対して、最も無理のない市場を提供するものである。というのは、その生産物を町民が必要するかぎりでは、農民は鉄道運賃や手数料を払わないで済むからである。

しかも農民やその他のものは、生産物の市場をその町に限定されるわけではない。この人たちは誰にでも自由に販売する完全な権利をもっているのである。この実験のどの特徴にもみられるように、ここでは契約を結ぶ対象になるものは、権利の範囲ではなく、拡大される選択の範囲であるということがわかる。

この自由の原則は、この町で財産をこしらえた製造業者やその他のものにとって有利に働く。この人たちはもちろん土地の一般的法律に従い、また労働者に豊かな空間と合理的な衛生状態を確保する規則に従うのであるが、自分独得の方法で事業を営むのである。

水道や照明や電話などは、能率よく公正に運営されるならば、自治体が最善の最も当然な供給機関であるが、厳格な、もしくは絶対的独占は期待されていない。

もしなんらかの民間法人もしくは個人機関が、町の全部ないしはその一部分に、自治体よりも有利な条件でこういったものを供給することができるならば、これは認められるであろう。真に健全な行動の組織は、健全なる思考の組織ほど、じつは人為的支持を必要としないのである。

自治体と法人組織の行動範囲はおそらく非常に拡大する運命にあるだろう。しかしもしそうであるならば、それは人びとがそうした行動に信念をもっているからであり、この信念は自由の範囲が広く拡大されることによって最もよく示されるからである。

地所の随所に各種の慈善施設が点在するのが見られる。この施設は自治体の管轄下にはなく、自治体によって、広い健康的な土地にこれらの施設を建設するよう招致された、さまざまな公共心豊かな人の手で管理されるのである。この人たちには名儀だけの地代で賃貸される。これら施設の消費力によってコミュニティ全体がたいへん潤うので、当局はそのように寛大な態度をとるのである。そればかりでなく、町に移住してくる人びとは、きわめて精力的で資力の豊かな人の仲間であるから、かれらの無力の仲間が人間性に対して十分に計画されている、ある実験のもたらす利益を享受することができるということは、まったく公正である。

注1 これは一八九八年当時農地に支払われた平均価格である。たとえ、この評価額が十分すぎるとしても、それほど開きはないと思われる\*。

注2 この本に述べられる金融上の取りきめは、形式においては、あるいはそれることはあっても、主要な原則からはずれることはない。一定の計画が合意されるまでは、この本の原題である『明日』のなかに現われていると同様に、精確に練りかえすのがよいと考える。『明日』は田園都市協会の母体となったものである。

(一九〇二年版の脚注 編者)

注3 自治体という語はここでは専門的な意味で使っているのではない。

注4 ロンドンのポートランドアブレスでもわずか幅員一〇〇フィートである。

注 以下の引用はこの本の一八九八年版のこの章の冒頭に書かれたものである。

「どんなに美しい景色でも、いつまでも飽かずに愛されることはない。しかし楽しい人間の労働によって豊かにされた景色、たとえばよく耕された畑、手入れの行きとどいた庭園、実がたわわになった果樹園、きちんと刈りこまれた、甘い香の漂う、お客のよく集まる屋敷、いきいきとした生命の歌声、こういったものはこれとちがう。

凝んだ空気はおいしくない。それは小鳥のさえずりや、昆虫の羽音や、男の低く太い声や、かん高い子供の叫び声などで満ち溢れるとき、はじめて楽しいものとなる。生活技術が学ばれると、すべての美しいものがまた必要なものであることを知るであろう。——栽培された小麦と同様に路傍の野草が、飼育されている家畜と同様に森の野鳥や動物が必要となる。なぜならば人はパンのみで生きるものならず、神々の食物も、また神のあらゆることはや知るをえない仕事も必要なのである。」

——ジョン・ラスキン『この後の者にも』(一八六二年)

\* 現実の最初の田園都市レッチワースは一九〇三年四月、五七四エーカー(二、八五二ヘクタール)の土地を一七八、七七一ポンドで購入して創設された。エーカー当り三九ポンドであった。一六頁では三、八一八エーカーとなっており、追加買収されて五七四エーカーとなった。



参考年表

立法	事件	立法	事件
一八〇三 教養法(総合)	一八〇三 イングランド銀行設立	一八〇三 建築組合法(基本法)	
一八三三 友愛組合法	一八三三 最初の建築組合ハイミンガムに設立される	一八〇三 住居法(クロス法)	
一八三六 貯蓄銀行法	一八三六 貯蓄銀行設立	一八〇三 雇い主責任法	
一八三六 友愛組合法			
一八三九 工場法(最初の)	一八三九 建築組合に一八一八年友愛組合法を適用	一八〇三 地方自治法(県議会)	
一八五三 自治団体法(近代都市行政の基礎となる)	一八五三 ロッチデール協同組合設立	一八〇三 労働者住居法	
一八五三 利益建築組合規制法	一八五三 エンゲルス『イギリス労働階級の状態』	一八〇三 小休有地法	
一八五九 工場法(二〇時間労働)	一八五九 J.S.ミル『経済学原理』	一八〇三 産業貯蓄組合法	
一八六二 公衆衛生法	一八六二 マルクス『共産党宣言』	一八〇三 地方自治法(教区会)	
一八六三 宿泊所法	一八六三 ロンドン大博覧会(クリスタルパレス)	一八〇三 建築組合法	
一八六三 首都管理法	一八六三 郵便貯蓄銀行設立される	一八〇三 友愛組合法	
一八六三 産業貯蓄組合法(協同組合立法)	一八六三 オクタビア・ヒル住宅管理改革	一八〇三 労働者補償法(最初の)	
一八六三 住居法(最初の)	一八六三 『資本論第一巻』	一八〇三 教育法(衛生監督)	
一八六一 労働組合法	一八六一 建築組合擁護連盟結成	一八〇三 小休有地と配分地法	
	一八六一 地方行政委員会設置	一八〇三 老令者年金法	
		一八〇三 児童法	
		一八〇三 住居建設と都市計画法	
		一八〇三 失業保険法	
		一八〇三 ハワード『明日―真の改革にいたる平和な道』	
		一八〇三 労働党結成	
		一八〇三 レッチワースの田園都市	
		一八〇三 ウェルウイン田園都市	

サー・フレデリック・J・オズボーン  
Sir F. J. Osborn

一八八五年ロンドンに生まれる。レッチワース・ウェルウイン支配人、都市農村計画協会副会長、IFHP名誉副会長などを務めた。一九四六年、ニュー・タウン法の立案につくし一九五三年、ナイトの称号をうけ、一九六五年、世界都市計画デーに「世界の都市計画の人」として全世界から祝福された。一九七八年逝去。

ルイス・マンフォード  
L. Mumford

一九〇五年ニューヨークに生まれる。ニューヨーク市立大学、コロンビア大学に学ぶ。パトリック・ゲテスより都市に対する興味を刺激され、建築、都市に関する評論を、文壇史的観点より書き、多くの著書がある。一九九〇年逝去。

長素連(ちよう もとら)

一九二三年に生まれる。一九三九年東京大学工学部建築学科卒。都市計画東京地方委員会、戦災復興院建築局、建設院都市局、経済安定本部建設局、建設省住宅局、東京都建築局、日本住宅公団勤務。一九九九年逝去。  
主な著書は、『住宅問題―日本の現状と分析』(共著)、『フラットとハウスマ―デザインとエコノミー』、『タウンスケープ』、『街の景観』

SD 選書 28

明日の田園都市

発行 一九六八年七月一五日 第一刷 ©

二〇〇七年一月二〇日 第一九刷

訳者 長素連

発行者 鹿島光一

印刷 平河工業社 製本 牧製本

発行所 鹿島出版会 東京都千代田区霞が関二-二-五電が関七九六階  
電話〇三(五五〇)五四〇 播番〇〇六〇・二・一八〇八三

方法の如何を問わず、全部もしくは一部の複写・転載を禁ず。  
落丁・乱丁本はお取替いたします。

ISBN4-306-05028-9 C1352

Printed in Japan

本書の内容に関するご意見・ご感想は下記までお寄せください。  
URL: <http://www.kajima-publishing.co.jp>  
E-mail: [info@kajima-publishing.co.jp](mailto:info@kajima-publishing.co.jp)